



東北復興の視察

福島県(復興庁・福島復興局・本宮市・浪江町)・岩手県(陸前高田市)

3月28日(月)から30日(水)まで、県央地域の県議会議員7名で東北の復興状況を視察しました。

私は市議会議員時代を含め、今回で3回目の視察となりましたが、2年前に比べると明らかにインフラ整備が進んでいるように見えました。しかし、本当の意味での復興(生活再建)には残念ながら、まだしばらく復興の道のりがあると感じました。

復興庁福島復興局では未だ10万人以上が県外に避難している状況下での著しい人口減少、双葉町・大熊町・浪江町・富岡町・南相馬市など、帰宅困難地域で除染が進んでいない現状を説明頂きました。

特に課題としては福島県に仕事が少なく、産業である福島県産木材が敬遠されている状況、子供達の運動不足による肥満など多くの課題があるようです。

岩手県、陸前高田市では震災から5年経った現在もプレハブ造りの仮市庁舎で業務をおこなっており、多くの課題を抱えながらも必死にふるさと再生に挑む姿を感じました。住宅の高台移転のため山を切り崩しベルトコンベアーで盛り土を造成していましたが、避難者アンケートでは「戻りたい」との意向が20%ほどしかない状況を今後どのようにしていくかが最大の課題であるとお話を伺いました。

今回の視察では、平成30年度で復興計画が終了とされる中でも、生まれ育った地域をなんとかが復興させようとする多くの方に出会いました。震災の教訓を生かし、今後30年以内に70%の確率で発生すると予測されている関東直下地震に万全の態勢を講ずるべきと感じました。

また、本宮市、浪江町、陸前高田市ではそれぞれ「ふるさと納税」の寄付をさせていただきました。

埼玉県の避難者数(被災県別)

岩手県	宮城県	福島県	その他	合計
119人	327人	4,545人	54人	5,045人

鴻巣市、近隣自治体の避難者数

鴻巣市	北本市	桶川市	上尾市	加須市
95人	24人	112人	226人	622人

鴻巣市・・・公的主体が管理する住宅(県営・市営・公務員・JR)38人、民間賃貸住宅30人、親戚・知人宅27人

※埼玉県 危機管理防災部



陸前高田市長に
ふるさと納税を寄付



証明書を発行していただき
浪江町の帰宅困難地域へ



大量の除染土
1600万~2200万m³と推計



津波で約2万本の松林が
1本に「奇跡の一本松」

並木正年(なみきまさとし)昭和45年(1970)鴻巣市本町生まれ/鴻巣幼稚園/鴻巣東小学校/鴻巣中学校/埼玉栄高校/亜細亜大学経済学部国際関係学科卒/セントラルワシントン大学AUAP課程修了/鴻巣幼稚園保護者会副会長/鴻巣市商工会青年部第31代部長/第8回このす花火大会代表/鴻巣市消防団第2分団員(20年目)/鴻巣東小PTA副会長/埼玉県知事上田政治塾塾生/鴻巣市議会議員2期/平成27年4月埼玉県議会議員初当選/警察危機管理防災委員/危機管理・大規模災害対策特別委員/家族:妻・長女(大学生)・長男(小学生)・愛犬レオ